

国内の臨床実習後OSCE実技試験に関する研究

研究分担者 伊藤俊之・滋賀医科大学・教授
研究分担者 藤田博一・高知大学・教授
研究分担者 早稲田勝久・愛知医科大学・教授

研究要旨

Post-CC OSCE（臨床実習後OSCE）の今後の公的化あるいは国家試験化を目指すにあたり、試験室、評価者、模擬患者などの各大学のリソースの現状を調査した。また、今後の臨床実習後OSCEのあり方や、公的化試験・国家試験としての実施する際の課題や問題点に関する意見収集を目的として、全大学を対象に調査を行った。多くの大学において臨床実習後OSCEの公的化は必要と考えているが、その実施にあたり、様々なサポートが必要であることが分かった。評価者や模擬患者は、専任を雇用するという意見が多いが、その運用については様々な課題を残していると考え

A. 研究目的

令和5年度よりPre-CC OSCE（臨床実習前OSCE）は医師法に基づいて実施される試験となり（公的化）、厚生労働省で定めた共用試験要綱に基づいて、公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が作成した実施要項に則り、統一した運営や到達判定基準で運用されている。臨床実習前OSCEと同様に、将来的に臨床実習後OSCEを全国統一した基準で運用する場合（いわゆる“公的化”を想定）、その問題点を把握する必要がある。令和4年度までは、機構派遣監督者や外部評価者の報告書をもとに課題の抽出を行ってきたが、令和5年度は、実施大学の現状を把握することを目的に全国調査を行った。

B. 研究方法

令和5年10月に全国医学部を対象にアンケート調査を行った。
（倫理面への配慮）

- ・本研究においては、個人や組織を直ちに識別出来ない形で各種データを解析するため、文書による説明・同意取得等は行わない。
- ・本研究の成果は研究報告書として公開されるが、個人や組織が特定されることがないように、十分に配慮する。

C. 研究結果

アンケート調査回答期限内に76大学より回答があった。
まず、臨床実習後OSCEの公的化に関し

ては、74%の大学が必要と回答した。公的化OSCEは、OSCEセンターで実施されるべきと回答している大学が最も多い（62大学）一方で、自大学で公的化OSCEが実施できるかという質問に、25%の大学が可能、47%の大学が人的・経済的サポートがあれば可能と回答した。各大学で実施する場合、試験環境が大学毎に異なる事に関しては、一定の基準を満たしているのであれば許容できるとの回答が83%であった。

評価者の募集に関しては、全員を外部評価者とした場合、どのように募集するのが良いかという質問に、「全国の医学部から可能な限り均等に負担する」という回答が最も多く（43%）、次に「専任の評価者を雇用する」（34%）が多かった。また新規の認定評価者に対しては、約半数がOn-the-Job Trainingが必要と回答していた。

医療面接模擬患者の募集に関しては、「専任の模擬患者を雇用する」との回答が最も多く（42%）、次に「全国の模擬患者団体から募集する」が多かった（26%）。身体診察模擬患者は、一般模擬患者（28大学）や医学生（26大学）、教員（26大学）や事務職員（25大学）が担当していることが多かった（複数回答可）。今後、医学生が身体診察模擬患者を担当できなくなった場合、その代わりをだれに依頼するかは、22の大学が「目途がたっていない」と回答した。また、医療面接模擬患者のうち、身体診察模擬患者を担当できる人数は、5名以下が50%と最も多かった。

試験日に関しては、公的化試験の場合は、58%の大学が別日程で良いと回答したが、国家試験化された場合については、26%であった。実施される課題は、公的化の場合、54%が別課題で良いと回答したが、国家試験化の場合は、26%であった。

D. 考察

多くの大学にて臨床実習後OSCEの公的化は必要と考えているが、その実施にあたり、様々なサポートが必要であることが分かった。評価者や模擬患者は、専任を雇用するという意見が多いが、その運用については様々な課題を残していると考えられる。公的化試験と国家試験では、実施日や実施される課題について、望まれる形式が異なることがわかった。

E. 結論

臨床実習後OSCEの公的化試験は必要という意見もあるが、評価者や模擬患者、試験実施場所など、様々な課題がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

- ・藤田博一, 掛田恭子: 特集 「COVID-19 対応で変わる社会と精神医療」 コロナ禍における医学教育と今後の課題, 日本社会精神医学会雑誌 31(2): 170-177, 2022
- ・藤田博一, 黒江崇史: 特集 With コロナ時代の精神医学教育の進歩-卒前教育から生涯教育まで-卒前・卒後のシームレスな精神医学教育, 精神医学 64(7): 983-990, 2022
- ・赤松正規, 藤田博一: 特集 精神医療・精神医学の組織文化のパラダイムシフト-医学生の精神医学教育のパラダイムシフト, 精神医学 65(2): 215-221, 2023
- ・藤田博一: 巻頭言「精神医学教育の重要性」, 日本社会精神医学会雑誌 32(4): 297-298, 2023
- ・大塚智子, 関安孝, 藤田博一, 武内世生, 瀬尾宏美: 面接方法の改善に向けた「コンピテンシー面接」の導入-「問題解決に至る思考や行動特性」を評価する試み-, 大学入試研究ジャーナル 34: 169-174, 2024

2. 学会発表

- ・藤田博一: 卒前・卒後のシームレスな精神医学教育, 第 117 回日本精神神経学会学術総会シンポジウム 32: With コロナに対応する精神医学教育とそのイノベーション, 京都 (オンラインハイブリッド), 2021
- ・関安孝, 山下竜右, 畠山豊, 高畑貴志, 杉田郁代, 塩崎俊彦, 藤田博一, 瀬尾宏美: コンピテンシーに関する学生の自己評価と成績の関係: 第 54 回日本医学教育学会大会

, 2022/8/5~6, 群馬 (G メッセ群馬)

- ・関安孝, 山下竜右, 大塚智子, 武内世生, 藤田博一, 瀬尾宏美: GPS アカデミックを利用した医学生の態度・習慣領域の客観評価. 第 55 回日本医学教育学会大会 (長崎). 2023. 7
- ・松尾朋峰, 黒江崇史, 藤田博一, 山口正洋, 瀬尾宏美: 医学生のコース選択に関する自治会アンケートの結果およびその活. 第 55 回日本医学教育学会大会 (長崎). 2023. 7
- ・大塚智子, 関安孝, 藤田博一, 武内世生, 瀬尾宏美: 面接方法の改善に向けた「コンピテンシー面接」の導入. 第 18 回全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (オンライン). 2023. 5
- ・佐藤麻紀, 青木瑠里, 河合聖子, 早稲田勝久, 伴信太郎, Kanikowska D. コロナ禍での医学部学生の生活習慣および活動量の変化. 第 55 回日本医学教育学会大会 (長崎). 2023. 7
- ・富田明日香, 中村天音, 猪口貴志, 梶浦大輝, 線崎奏夢, 新美友太郎, 大橋渉, 早稲田勝久, 河合聖子, 福沢嘉孝, 山森孝彦. 学生講師による選択講座「実践例から学ぶ医学部初年次学習法」: 意識改革から実践へ繋げる 2 年目の取り組み. 第 55 回日本医学教育学会大会 (長崎). 2023. 7
- ・早稲田勝久, 河合聖子, 佐藤麻紀, 神谷英紀, 船木淳, 鈴木耕次郎, 笠井謙次, 宮田靖志, 伴信太郎. 地域医療プログラムの変化による卒業時習得すべき臨床能力への影響. 第 55 回日本医学教育学会大会 (長崎). 2023. 7
- ・河合聖子, 早稲田勝久, 佐藤麻紀, 神谷英紀, 鈴木耕次郎, 鈴木孝太, 笠井謙次, 船木淳, 伴信太郎. 学生の学修支援体制のあり方と短期的成績改善効果の検討. 第 55 回日本医学教育学会大会 (長崎). 2023. 7

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし